



## 2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2019年8月8日

上場会社名 株式会社ソケット 上場取引所 東  
 コード番号 3634 URL <https://www.sockets.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浦部 浩司  
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレートマネジメント室室長 (氏名) 小田嶋 俊和 TEL 03-5785-5518  
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日 配当支払開始予定日—  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有「2020年3月期第1四半期決算補足資料」を同日付けで公表しております。  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第1四半期の業績（2019年4月1日～2019年6月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	285	△13.3	△19	—	△19	—	△19	—
2019年3月期第1四半期	329	△7.2	△39	—	△39	—	△40	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	△8.12	—
2019年3月期第1四半期	△16.42	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	1,218	1,016	81.1
2019年3月期	1,245	1,044	81.5

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 988百万円 2019年3月期 1,015百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	0.00	—	3.00	3.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,450	0.5	15	△79.5	15	△79.4	12	△82.2	4.89

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※当社は年次で業績管理を行っているため、第2四半期累計期間の業績予想は行っておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期1Q	2,477,400株	2019年3月期	2,477,400株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	24,583株	2019年3月期	24,583株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期1Q	2,452,817株	2019年3月期1Q	2,444,562株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・当資料に記載している業績見通し等の将来に関する予測は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報及び、合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想の利用については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・四半期決算説明補足資料はT D n e t で同日開示しています。
- ・当社は2019年8月9日（金）に機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、一定の内外需を背景とした継続的かつ底堅い基調である一方、米国、イラン、中国、韓国、北朝鮮などを取り巻く不安定な国際情勢に端を発する海外発の景気下振れリスクにより依然として先行きが不確実な状況にもあります。

このような経済環境の中、次世代高速通信網5Gの導入、自動車や家電はじめ日常生活においてインターネットに接続される端末数の急激な増加、それに伴うセンサー技術の発達、また社会へ普及が進む人工知能(AI)など人と機械のコミュニケーション手段の進展や多様化がより一層進むことが予想されます。その過程で様々な行動履歴(ログ)、環境情報や生体情報などあらゆるセンシング情報を含む大量の情報やコンテンツなどが従来とは比較にならない規模でインターネット上で保管、流通される状況がさらに進みます。それらの新しいネットワーク、テクノロジー、データの有効な利活用において、新たな産業構造が生まれる可能性があります。

その中で、あらゆるコンテンツ(音楽・映像・書籍・テレビ・イベントなどエンターテインメント全般および広告コンテンツ)を体験する機会においても、緩やかにかつ確実な変化が起きております。その変化のうねりは、より大きなものになり、日々の生活の中でより多くのコンテンツに接触する機会が増加することによる関連市場の飛躍的な活性化に大きな事業機会があります。

またインターネットにつながるデバイスが、家電、テレビ、自動車など生活に密着した機器にまで広がるIoT(Internet of Things)と大量データを自律的に学習するAIの普及、データ解析や予測技術の進展、これらを通じて新たな価値を生み出すデータベース関連サービスの事業機会の増加が予想されます。また人と機械、人とテクノロジーとのコミュニケーションにおいて、従来のスマートフォン、パソコンなどを通じて、画面やテキスト(文字)を通じた情報のやり取りだけでなく、人と機械がより自然に会話をするなかで、情報のみならず感情など目に見えない情報までもやりとりする対話型インターネットサービスの進展も予想されます。

このような環境のもと、当社は「データベース・サービスカンパニー」として、『人の想像力をつなぐ』ことをミッションに、コンテンツに紐づく情報をデータベース化したオリジナルのメディアサービスデータベース(以下「MSDB」といいます)を開発し、通信会社およびインターネットサービス会社を対象に、データ提供、検索機能提供、レコメンド・パーソナライズ機能提供、データ分析などの多様なデータベース関連サービスの開発および提供を行っております。

当社の強みは、創業来10年以上に及びエンターテインメントを通じて人間が持つ感情や感性を体系的、網羅的、詳細にデータベース化を行い、国内最大級の感性データベースであるMSDBとして自社開発、運用を行い、それらで蓄積した「感性メタ」を活用したデータ分析やAIを例とするデータ活用応用技術にあります。

MSDBで培った感性および感情を科学する技術を発展させ、エンターテインメント産業の発展に貢献するのはもちろんのこと、人の感性を理解するテクノロジーを通じて美容、食品、飲料、衣料、消費材、旅行、イベントなどにデータ開発の領域を広げております。そのうえで、エンターテインメントから始まりあらゆる分野の感性データを連携する「ブランドパートナーシップ」「クロスプロモーション」など独自の感性マーケティングサービスが提供可能となりつつあります。

まずは、現在の主力サービスである音楽・映像・書籍・人物を中心とした多くの情報からその日その時のおすすめを提供する「レコメンドサービス」、サービス利用者の一人ひとりの嗜好性を分析し、サービス利用者の好みにあわせた情報を提供する「パーソナライズサービス」、エンターテインメント分野に特化した「検索サービス」、「データ提供サービス」、当社独自感性メタデータを活用した分析による「データアナリティクス(データ分析)サービス」を強化してまいります。

これらのサービスについては、ユーザーベースをもつパートナー企業への技術ライセンス提供として、KDDI株式会社、株式会社レコチョクを通じた株式会社NTTドコモ、ヤフー株式会社、楽天株式会社、LINE MUSIC株式会社などのサービスにて利用されております。

一方で従来大手通信会社向けの受託型の開発・運用事業においては、さらなる縮小が続いております。その中で当社独自の「感性AI」を活用した「人の感情、感性を理解するテクノロジー」による特定分野に特化した「専門AI」に関する特定パートナー企業とのサービス検証、プロトタイプ開発からサービス化に向けた取り組みが始まっております。また感性マーケティング事業に向けて美容分野への感性メタデータ提供も始まる中でより広い普及を目指した新たなプロダクト開発も始まっております。

これらの事業活動の結果、データ・テクノロジーライセンス事業に一段と主力事業がシフトする一方で、販売管理費として計上している研究開発費への積極投資、通信会社向け事業の内容見直しなどによる影響もあり、当第1四半期累計期間の経営成績は、売上高285,814千円(前年同期比86.7%)、営業損失19,936千円(前年同期は39,525千円の営業損失)、経常損失19,843千円(前年同期は39,657千円の経常損失)、四半期純損失19,907千円(前年同期は40,144千円の四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期会計期間末における総資産は、1,218,585千円（前事業年度末比27,272千円減）となりました。流動資産につきましては968,338千円（同14,996千円減）となりました。増減の主な要因として、流動資産につきましては売上債権の回収による現金及び預金の増加（同110,961千円増）および売掛金の減少（同162,076千円減）があります。固定資産につきましては、減価償却によるソフトウェアの減少（同13,476千円減）などにより、250,247千円（同12,276千円減）となりました。

負債は、201,647千円（同97千円減）となりました。増減の主な要因としましては、開発案件に係る外注費などの買掛金の減少（同7,063千円減）、賞与支給による賞与引当金の減少（同21,643千円減）、期末経費の未払金の増加（同6,830千円増）などがあつたことによります。

以上の結果、純資産は、1,016,938千円（同27,175千円減）となり、自己資本比率は、前事業年度末の81.5%から81.1%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の個別業績見通しは、以下のとおりであります。直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,450	0.5	15	△79.5	15	△79.4	12	△82.2	4.89

(注) %表示は対前年増減比になります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	639,333	750,295
受取手形	—	16,200
売掛金	309,346	147,269
仕掛品	1,415	15,185
その他	33,311	39,430
貸倒引当金	△73	△42
流動資産合計	983,334	968,338
固定資産		
有形固定資産	20,283	19,012
無形固定資産		
ソフトウェア	59,008	45,531
ソフトウェア仮勘定	—	2,800
その他	72	72
無形固定資産合計	59,081	48,405
投資その他の資産		
その他	184,126	183,797
貸倒引当金	△967	△967
投資その他の資産合計	183,158	182,829
固定資産合計	262,523	250,247
資産合計	1,245,858	1,218,585
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	42,851	35,788
未払金	9,513	16,343
未払法人税等	1,907	3,175
賞与引当金	44,143	22,500
その他	39,035	57,643
流動負債合計	137,451	135,451
固定負債		
退職給付引当金	63,598	65,661
その他	694	534
固定負債合計	64,293	66,195
負債合計	201,745	201,647
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	505,737	505,737
資本剰余金		
資本準備金	404,137	404,137
資本剰余金合計	404,137	404,137
利益剰余金		
利益準備金	4,295	4,295
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	133,790	106,524
利益剰余金合計	138,085	110,819
自己株式	△32,009	△32,009
株主資本合計	1,015,949	988,684
新株予約権	28,163	28,254
純資産合計	1,044,113	1,016,938
負債純資産合計	1,245,858	1,218,585

( 2 ) 四半期損益計算書  
( 第 1 四半期累計期間 )

( 単位 : 千円 )

	前第 1 四半期累計期間 ( 自 2018年 4 月 1 日 至 2018年 6 月 30 日 )	当第 1 四半期累計期間 ( 自 2019年 4 月 1 日 至 2019年 6 月 30 日 )
売上高	329,743	285,814
売上原価	220,123	167,698
売上総利益	109,619	118,115
販売費及び一般管理費	149,145	138,052
営業損失 ( △ )	△39,525	△19,936
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	420	70
受取手数料	63	63
その他	10	30
営業外収益合計	496	165
営業外費用		
為替差損	604	55
その他	23	17
営業外費用合計	628	72
経常損失 ( △ )	△39,657	△19,843
特別利益		
新株予約権戻入益	—	508
特別利益合計	—	508
税引前四半期純損失 ( △ )	△39,657	△19,334
法人税、住民税及び事業税	486	572
法人税等合計	486	572
四半期純損失 ( △ )	△40,144	△19,907

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。